

2013.10.12

日本学連 2013 年度秋総会 議案資料

作成：山川克則（副会長・YMOE 社）

案件名：スプリントインカレ（実験大会）について

事業内容：（内容は後述するが）一言で言うと、今年の春インカレの例年モデル・開会式が開催される金曜日にさらに 1 レースウィニング 12 分の決勝のみの一本勝負でスプリントインカレの実験大会を開催する是非について討議をお願いしたいということ

発端：

いうまでもないことだが、日本学生オリエンテーリング連盟というからには、オリエンテーリングの種目すべてを取り扱う唯一の学生統括の全国団体ということになるが、その範疇は、主に foot オリエンテーリングのことを扱っている。（他に、スキー O、トレイル O、MTB-O があるがこれらのことは主としては学連では扱っていないし、扱いきれない、唯一現在あるのが“インカレ協賛大会”として、日本トレイル O 協会が主導してインカレ前日に行っている程度で、つまりは日本全体の団体に学生含めて活動は任されているし、活動規模もそのレベルのものである。ちなみに、“今年のインカレ協賛トレイル”も昨年に続き春インカレの方での開催になる。）でもって日本学連が主に扱うオリエンテーリングは foot オリエンテーリングということになるが、この競技にも 4 種目（ロング、ミドル、スプリント、リレー）である。このうち、スプリントについて来年より世界のフォーマットが大きく変わる。このことについて、日本の競技統括団体として、何らかの対応を迫られるわけだが、これまでの学連として、その組織内の最高の競技パフォーマンス発揮の場としてインカレスプリントの扱いについての経緯もあるので、今までの取り組みを見直して、自分達にいったい何が今の環境下でできるのか、それを根本から考え直してみることもからもう一度始めなおしてみようということで、今回の実験大会を提案している。

尚、世界のオリエンテーリング種目のフォーマットの大きな変革は JOA（日本オリエンテーリング協会）の以下の web ページで解説されているので、総会から帰ったら一度ちゃんと読んでおいてもらいたい。

<http://www.orienteering.or.jp/NT/>

http://www.orienteering.or.jp/NT/news/2013/0902_post_27.php

<http://www.orienteering.or.jp/archive/files/New-WOC-Format2.pdf>

http://www.orienteering.or.jp/NT/news/2013/0909_2014.php

特にスプリントについては、以下のように公開での説明と発言の機会があります。

<http://onoe.haniwa.co/Sprint-Forum.pdf>

要するに、選手選抜の形式が大きく変更され、まとまった人数（3 名）が参加できる種目は日本のような競技環境の場合、スプリントとリレーしかなくなるということ。それに加えて、スプリントの対策がこれまでちゃんとできていたかという、失格者が多発したり、基本的にその競技そのものの環境に対応できていなかったりと色々準備体勢にまで反省のコメントが出てくるようになり、日本国の組織としても、新たな対応策がすぐに必要になってきているということです。（短すぎて全部を言っていないかもしれませんがそれはご容赦）

学連としての種目対応のこれまでの経緯をざっと（詳しくは、活動報告書に掲載されている）

第 1 回～第 6 回：クラシックレース一本、団体戦は各校 3～5 名のタイムの合算

第 7 回（1984 年）～：日本学生オリエンテーリング連盟の正式発足と団体戦をリレーで日光で開催なので、学連にとって“日光”は聖地といわれている。

1992 年 インカレショート試行大会（馬籠）秋開催、予選・決勝方式

1993 年 インカレショート開始（伊那）秋開催、予選・決勝方式 そのごしばらく定着

2004 年 ショートをミドル改称、クラシックとロングと改称、ロングとミドルの開催記時期を秋開催と春開催で交換、この年から秋ロング（愛知の WOC テレイン）春ミドル（予選決勝公式、日光「不動の滝」の形式に。種目名称の変更は世界の流れに合わせた。

2009 年 ミドルの予選決勝公式を決勝一本に、予選決勝方式の運営負荷の大きさの問題の他に世界のミドルの基準に合わない短い時間の競技になっていたことを是正する意味もあった。

で、今回のフォーマットの改訂は、学連としてもスプリントの対応を今一度求められるものではないか、こうしてあげた変革と同レベルで扱わなければならない問題なのでないかということで議論に上げた。

学連としてのスプリントへの取り組みの経緯

（世界的には）オリエンテーリングの導入・基礎として、当初から公園や大学キャンパス内でのオリエンテーリングは（日本でも同様、大学クラブの創設時よりキャンパスマップはある）行われていたが、これも短

距離の一種目として扱うようになったのは 2000 年を過ぎたあたり、大縮尺の地図規定も制定され、世界レベルの競技としては「パークワールドツアー」として開始、日本にも来ている（立川の昭和記念公園）。その後パーク O から、スプリントと種目名を変更し（同時にミドル種目も増えた）世界でも、同日開催の予選決勝方式は、スプリントで開催されている。

学連としては、行事が多くなりすぎる、そんな短い競技に全国から選手がちゃんと集まるのかなど多くの懸念が当初からあり、その頃創設された全日本スプリントに加わる（お願いして混ぜていただく）形式が取られた。これは第 1 回の全日本スプリントの運営の中核に当時技術委員会でインカレスプリントの草案作りに加担していた吉村年史氏（現北九州 OLC、広島大 OB）もいたことで、インカレ競技規則の書き換え作業を行っていた前技術委員長西脇氏とともに主導された。それは、全日本の E 権とは別に学生の枠ルールを設定し、コースは同じ、全日本の決勝に漏れても、学生の決勝には残れる、逆の言い方をすれば学生の出場者には、全日本の E 権をももち、全日本と学生両方に出るものと、学生のみカテゴリで出場するものが混ざるというものであった。第 1 回は、全日本は正式な全日本スプリント、学生はインカレスプリント試行大会、それでショートが辿った軌跡と同様第 2 回の全日本スプリントでインカレスプリントも正式発足ということで、規約準備なども進められていた。しかしながら、当初からあった懸念材料は何ひとつ解消されたわけではなく、第 2 回前の学連内議論で、スプリントは正式にインカレとするには、早計であるという結論になった。（ちなみに、これは総会で扱う前に幹事会議論で決しました。）しかしながら、今までの流れを止めてしまうのもそれは無い、ということで「学生の部」として続けることにした。

つまり、学連はこの時点で一度「インカレスプリント」開催を正式に「否決」したことになる。そのとき出た意見の懸念材料は、今と同様、

- ・ スプリントだけで遠征はできない
- ・ そもそも大会多すぎ
- ・ 手軽に行える種目ではあるが、これを真剣に一正式種目として真剣に取り組むどうかはまだ怪しい
- ・ なので、インカレ設計の基本としてある参加費収入で大会の経営が成り立つかどうかも怪しい

などでありました。

第 2 回は、この原稿を書いている山川が運営を引き受けていたので、お願いされるまでもなく、第 1 回で西脇・吉村が主導したフォーマットを引き継ぎ開催した。第 3 回以降は、このフォーマット（「学生の部」として別枠募集、二重登録での開催）のお願いを続けていくこととし、第 3 回での茨城では、幸いにして受け入れていただいた。これにはそもそも第 1 回全日本からの主催者の発想として、スプリント大会を引き受けるにあたって参加動員・大会の採算性からいって、学生の参加がなければそもそも日本全体でもスプリントの大規模大会の開催は厳しいという同様の懸念があって、合体すればお互いの目算が合うのではないかと、という面もあったのであるが、立場上は学連がお願いする立場、それにルールが二重で複雑なため、色々な問題も抱えていた。（高度な運営が必要／一般決勝に落ちても学生決勝に残れるとか、一般決勝に出た学生と学生決勝のみだったものを混ぜて、学生表彰を行うのだが、合体集計をミスったとか。）で、第 3 回（茨城）では、まだ学生の参加もある程度はあったが、大会主催者の経費はほぼ手弁当だったし（交通費も満足に出ない）、第 4 回（群馬）では学連からのお願いも通じなかった。第 5 回（三重）では、また学生の参加を期待して協議に入ったが、スプリントの単独開催では他の行事も続いていたこともあり、学生の参加は無残なもので、女子に関しては学生表彰を行うのもおこがまれる程の参加規模であり、学連としては大会主管者に大きく迷惑をかけてしまう結果となった（三重県協会からはメ切を延長してまでも名大や京大に依頼がいったのを覚えている方もまだ昨年のことなのでいるでしょう）。で、今年の第 6 回（滋賀）ですが、自分もコラボ大会して翌日大会を主導する立場も兼ねているので、学連としての例のお願いをしてみたのですが、同時に今までの問題点なども説明をしたわけですが、複雑な二重ルールをこなせるほどの運営体制ではなく、普通にワンフレームで予選・決勝を行うということになりました。意識ある大学生や中高生（今までその表彰もあったのでそのつもりでいた選手もいるだろうと・・・と思い）に対するケアという点で自分は食い下がり、ワンフレームの枠内で決勝にでた大学生・中高生は特別表彰する（スポンサーは YMOE 社がなる。まあ 2 万円程度の出費）ということで体制を収束しました。（滋賀の web ではまもなく要項が修正されます。）

- 第 1 回 2008 千葉 インカレは試行大会
- 第 2 回 2009 新潟(ジェネシス) インカレは否決、「学生の部」として全日本に混ざる
改定インカレ規則に盛り込まれていたスプリントに関する文言はすべて削除して成立
- 第 3 回 2010 茨城 学生の部継続 学生表彰もまずは成立した
- 第 4 回 2011 (開催は 2012 年 3 月) 群馬 学生の部無し
- 第 5 回 2012 三重 学生の部復活 (要項草案に学生選手権とかかれていたので、文言の修正をお願いした。しかし学生の参加規模は惨憺たるもので、結果としてはかなり迷惑をかけてしまった)
- 第 6 回 2013 滋賀 学生の部は無いが、通常の決勝フレームの中で、学生生徒の特別表彰
なので、曲がりなりにもインカレ代替であった「学生の部」という扱いでもなくなり、スプリントのイン

カレ（と呼ぶべき大会）は一旦消滅することになった。

（全日本のE権を取得しているもののみが出場できる大会なので、学連のフレームとは別枠の大会であるということ

尚、今後この学連としての「お願い」を、全日本スプリント主管者に対して続けていくかという問題だが、あとで展開するモチベーションという観点からも、三重から滋賀へのこの流れで一旦霧散させるのが適当だと思う。

あと三重でも、この二重ルールによる問題？も発生しています。東大の三谷君が予選で落ち、学生決勝にはギリギリ残ったが、決勝で快走、全体でも3位に入る成績だったが、全体3位の表彰はなく、学生1位の表彰のみとなった。

モチベーションが問題

で、話が今年の議論になります。世界のこの流れ（世界に複数の選手を送り込める種目が、日本のような実情の国では、実質スプリントとリレーしかなくなったということを目指します）に対応していくために、日本を代表する組織としてどう取り組んでいくべきかという議論です。先日の幹事会で少し突っ込んで議論しましたが、根本の議論としてモチベーションのないところに将来はない、ということが挙げられました。なので、全日本スプリントの主催者に対して、「学生の部」の設置のお願いをしていくという行為も、三重での実績の通りモチベーションを保ち得る方法ではなかったということで、このお願い行為を滋賀とのやりとりをきっかけに、今後はないことにしましょう。それに替わるモチベーションを保ちうる方法があるのならそれを模索しよう、ということで議論を進めていこう、ということになりました。

スプリントに対する日本選手の対応力の問題（ルール遵守の問題）

2-3年か前のWOC（世界選手権）のスプリントで日本選手の失格が相次ぎ、その準備ができていたかというところまで、反省点があとから挙がりました。日本での今までの開催実例をみても、失格行為に対する選手の心の準備という点では、結果としてちゃんとした準備・心積もりができていないということになります。事前に説明をうけて頭の中でわかっている、スプリントという高速でのレースの中で、反則行為を厳しく律しながらレースをするというのは余程の集中力を要することのようです。日本国内のレースでも、いくら注意しても実際のレースになると反則行為は多発しています。人を立てても青黄テープをかけても制御しきれないものでないということのようです。

スプリントはショーアップスポーツ、パークOはみんなのスポーツ、似ていて非なるものでは？

ルールを厳格に守らせるのなら、非常に高度で特別な集中力を要する種目である以上、監視をつけて今以上に厳しい環境下で競技を行うしか方法はないのかもしれない。選手には相当の精神的バイアスをかけることになる。そうすると、みんなのスポーツということ相容れなくなる。運営資源の問題もある。ということは、ショーアップスポーツである以上、参加費収入に頼る運営形態は実情に合っていないということになる。きちんとした訴求をして、スポンサーとか競技力向上のための補助金を使うとかそういう発想になる。

スプリントインカレ実験大会の概要

- ・ 決定自体は、幹事会決議枠の中で決定できる（地図作成：20万円、運営（プロ委託有志協力）20万円）で実行の決済は幹事会裁量で決済可能、そして幹事会では決済するという方向で現在すすめている。
- ・ 例年ミドル&リレーの開会式とモデルを行う金曜日に1時間ちょっと特別に時間をとって12分のレースを行う。参加費は無料（幹事会決議可能予算で実験イベントは実行可能）。
- ・ ウィニングは12分、男子40名女子20名程度を自己推薦で選出（実績記入）、人数で切るのではなく、運営可能な一定数の枠内で運営者が選出。
- ・ ミドルの前日ということで、調整に影響があると考える選手の出場までは強要しないし、回りから非難もされないという前提で進めたい。あくまでも、日本の将来を考えた上での実験イベント
- ・ その時だけの設定ルールというのもあり、予めそれは観客には公開される。またそこで観戦することによって、監視の環境ができる。

要するに論点は、みんなの代表、みんなが競技の詳細まで詳しく見ている・見られているという極度の緊張を強いた中で、いかに高速でのナビゲーション（そのナビは比較的簡単で、見るにも値するもの）のパフォーマンスを発揮できるか、それを実験しようとしている。したがって、その実験イベントの間は、毎年行っている金曜の行事を削って行うことになる。（具体的には、モデルの営業時間が例年より短くなり、シード選手紹介の練習とかに去年ほどの時間は割けないが、それでも実験イベントをやるかという問題になる。

考え方としては、過去の否決の歴史を引きずっている。否決した責任というのを感じている。

そして、今年世界のフォーマットが変わり、さらなるスプリントへの対応が求められている。

否決するにも、また何も扱わないで不作為でいるのにも責任が生じるという認識が今の世界の中での日本の位置づけであると思う。なので、このまま JOA のやることだけにのっかかるのか、学連としてインカレスプリントとしてできることがあるのか、あるいはどういう形なら開催可能なのかそれ確かめる実験であると言える。

で、今年の提案に戻ると、確かに今の枠組みの中でこのような実験大会を行うのも大変である。運営はインカレ実行委員会とは別途行うということでも、インカレのプログラムの流れというのがあるから、かなりの無理が伴う、それを押してでも開催する意義というのを学生に直接確認して欲しいという意見であった。つまり真剣にこの実験に向き合わなければ、ミドル&リレーの前日にはあるけれども、インカレの運営時間を削ってそういうイベントを行うだけの意味はないのではないか、協力もしづらいというスタンスであった。なので総会で扱ってもらっている。

どのようにやっていけばモチベーションを持ちうるのか、そのような実験をしたい、なのでまだまだ色々な意見を吸収して行っていけたらいいなと思う。

スプリント競技の認識から一度リセットしてちゃんと学ぼう

地図の表現でプロは協力

競技形式は、実際にその姿を見てみた方々に依頼して、これが本当のスプリントだということを、一旦提示するような競技会にしたい。また、色々な人の意見を受け入れながら採用できるアイデアはさらに組み入れていきたい。

スプリント特有の変則的、あるいは厳格なルール遵守に関しては、観客を活用して、観客には予めネタばらししておき、その上で観戦してもらうということを考えている。変則的な物体については、その時臨時に作成されるものも含む。

ショーアップも現状のマンパワーでできる限りのことをしたい。(プロ活用) ちょうど 1 時間の TV のスポーツ中継をライブで見ているような感覚のイベントをやってみて、その舞台上上がる選手のモチベーションというところから議論したい。

最後に

ことスプリントに関しては、日本協会も今までの経緯・反省から今後新たな取り組みを開始すると聞いている。日本の環境の場合、スプリントに適した環境で競技可能な場所となると、まず大学キャンパスということになるという見解もある。学連の取り組みとも連携した関係というのが、今後も大きく議論の俎上に上がってくるだろう。否決の責任、不作為の責任ということも考えて、まずはこの実験イベントに取り組んでみてはと思うし、何もやらない段階で、モチベーションが無いから、低いからということで、結論を出してしまうことの後世へ責任ということまで考えを及ばせて欲しい 1-2 いと希望する。